

＜サービスの質の評価に関する取り組みについての報告書＞

令和2年2月28日に、職員全員で「自己評価チェックリスト」に基づいた話し合いを行い令和元年度の福祉サービス内容評価を実施しました。

1、子どもの発達

発達と援助	◎未満児クラスは、子ども一人ひとりの発達段階や発達の遅れがある子どもたちに、必要に応じた援助ができるよう、クラスにとらわれず発達に応じたグループ分けで活動し、職員間での連携を深め、適切な援助や環境構成に努めた。以上児・未満児ミーティング、ケース会議等を通して、子どもたちの様子、物的・人的環境について話しあい、情報を共有できるよう努めた。気になる様子が見られる子どもには、保護者と情報を共有しながら、原因を探り、個々の状態や特性に応じた働きかけができるようにしている。
-------	--

2、教育及び保育内容

養護	◎コロナ感染症が流行し、全クラス毎日の検温と健康状態を記入してもらう事とし、登園時の視診・触診・検温を行うことで、発熱や体調の変化、異常に早期に気づき、早めに対処するよう努めた。朝礼・昼礼・連絡ノートを通じて、情報を共有し、担任以外の保育教諭でも対応できるようにしている。
教育	◎園児が主体的に、様々な活動を意欲的にできるような働きかけをしたり、子どもたちが自分で、好きな活動を選択してできるように、ゾーン活動の充実を図る等、満足した経験ができる、様々な環境を提供するように心掛けた。戸外活動も充実し、鉄棒に取り組む姿が多くみられた。刺激を受け、年長組全員が逆上がりができるようになる等、コツコツと諦めないで取り組むことの大切さと、様々な成功体験を重ねる中で、「やればできるんだ!」という自信に繋げる事ができた。異年齢の子どもたちもその姿に刺激を受けて、意欲的にいろいろな活動に取り組む姿が見られた。
環境	◎園庭の思いやり板をなくし、土に整備してもらえた事で、つまずいたり、滑って転んで怪我をする子が減少し、子どもたちも足元を気にしないで、思いっきり身体を動かして遊べるようになった。四月に姉妹園の用務員の協力を得て耕運機で畑を耕した。昨年と同様、鶏糞を蒔くなどして土づくりをし、草取り・水やりなど園全体で協力して畑づくりができた。今年は、大根、ジャガイモ、さつまいも、人参、ピーマン、パプリカ、はつか大根、インゲン、きゅうり、ミニトマトを栽培し、実がなり、収穫を楽しんだ。特に大根・ジャガイモは豊作で、各家庭に配ることもでき、保護者に喜ばれた。 天気の良い日は、園庭や散歩など、積極的に戸外活動の充実を図ってきた。運動会ごっこの時期には近隣の広場に足を運び、かけっこやお遊戯、バルーンやボール遊び等、全クラスがのびのびと楽しめる活動になるように、職員で工夫しあって、園内では味わえない幅広い活動内容となった。今年はコロナ禍の影響で、楽しめる行事が減ってしまったので、いつもとまた違った活動を職員間で、アイデアを出し合い進めることができた。

言葉	◎子どもの考える力を引き出す為に工夫を凝らし、文字や数字など発達にあった言葉がけ・配慮ができるよう努めた。年少クラスでも自信をもって言葉にして伝えられるようになってきた。「ふわふわ言葉」「とげとげ言葉」を使ったら、どんな気持ちかな…と、その言葉から感じる色・匂いなど…感性を引き出す働きかけをした。また、言葉の語尾には「です、ます」をつけて発表できるようにしている。未満児クラスでも言語の発達を促すために、毎日必ず絵本や紙芝居の読み聞かせや手遊びなどを日常の生活の中で取り入れている。
表現	◎未満児クラスは保護者参観日の「ミニ発表会」に劇遊びや楽器を鳴らしたり、曲に合わせて身体を動かすなど、表現する楽しさを味わうことができた。以上児クラスは「成道会」は、例年とはまた違った形で発表することにはなったが、今まで頑張ってきたものを見せる事ができ、大きな舞台に立って成功した体験は子どもたちにとって大きな自信につながった。3学期には、以上児クラスが各クラスで鍵盤ハーモニカを使って、それぞれ子どもたちに見合った合奏に取り組み、お別れ会に演奏した。3歳児は鍵盤ハーモニカに挑戦したり、様々な楽器に触れ楽しんでいる。
障がい児保育	◎年長児2名（途中再入園）、年中児1名、年少児1名、2才児1名が（2月～）桂堂学園と併行通園をしている。年長児2名に関しては、週1（水曜日）園で1日過ごすことになる。1才児男児が、5月くらいから、桂堂利用予定である。

3、教育及び保育の内容に関する全体的な計画及び評価

	<p>◎全体的な計画を作成し、教育課程に基づいて、年、月、週の指導計画を立てて教育及び保育を実践している。就学に向けたアプローチカリキュラムの計画を新たに立て、年長児は小学校の就学までに身に付けたい力を一年間の目標を立てて実施してきた。目標をもって、諦めないで取り組む事で、出来る力を伸ばし、自信へとつながる保育を心掛けてきた。</p> <p>日々の活動を通して、今子どもたちが必要となるものな何か、育て欲しいと感じる姿を職員間で意見を交わし、以上児クラスは特に、内容がいつも充実したミーティングであった。</p>
--	---

4、健康及び安全

事故予防	◎「事故防止委員会」を設け、副園長、主幹、以上児・未満児のリーダーの4人で「事故リスク軽減の為にチェックリスト」の確認と「インシデントレポート」の事故関連の検証をしている。今年度は事故報告書6件を検証した結果報告とそれに伴い、今後の対策についての話し合いもし、後日職員会議にて報告し共有している。今年は園庭の思いやり版を取って整備した事で、転んで怪我をすることが減少。インシデントも昨年に比べると少なくなった。
------	---

食物アレルギー	◎1歳児女児は、「乳製品・大豆」。2才児男児は「ピーナッツアレルギー」除去となっている。職員全体で共有し、アレルギーの園児に対して、給食調理員とも連携を図り、トレーの色別や名前カードを用いたり、確実に間違わないようにと、個別に発泡スチロールの箱に入れるなどして徹底することにした。食事の際は必ず職員がそばにつき、席を固定し写真を貼るなどの対応を続け、誤食を防いでいる。2歳児、長芋、山芋除去食の子女児1名。
食育	◎調理担当者が日替わりでその日のメニューや食材・栄養について、分かりやすく話をしてくれる事もあって、食材に関心をもって食事している。また、園児が栽培し収穫した野菜を給食調理に使い、食材への興味や関心を引き出すようにしている。例年に引き続き3歳以上児がカレーライスやフルーチェ作りを行う。クッキング教室は、今年度も2回実施でき、年長児のお泊まり保育での夕食材料を購入するお買い物体験も昨年同様行った。他にもケーキ作りをする等、調理体験や園児が食への興味が出るような計画を立てて実施した。
感染症	◎コロナウイルス感染症の流行に伴い、対策について早急に保護者に文書を配布・掲示をする。全クラス毎日の検温・健康状態を記入、手指の消毒、マスク着用、県をまたいでの移動を避けるように、もし移動した時には、家庭で2週間様子を見てもらうなど、職員も同様、感染予防に努めた。その為例年流行するインフルエンザの発症はなく、胃腸炎の発症が数件のみであった。

5、保護者に対する支援

保護者	◎子どもの事で、保護者が困っていることや気になる事があり相談された時には、保護者の思いを受け止め個別に話し合う場を設けたり、園での様子をみてもらうなどして、どういう支援、関わり方が必要なのかアドバイスしたり、内容によっては園長に相談するなどして、適切に対応している。積極的に声をかけるなどして保護者と信頼関係を築けるよう努めてきた。保育参加には毎年参加している保護者も多く、コロナ禍の中でも、普段の園での様子を今年も見ることが出来て良かったと、喜んでもらえた。今年度は58名の参加があった。
虐待	◎早期発見に努めているが、今年度は虐待を疑うようなケースは1件もなかった。
子育て支援	◎クラス懇談を8月に、個人面談は12月上旬に行った。コロナ禍の中ということもあり、蜜をさけ、いつもより間隔をあけて行った。クラス懇談会では、保護者の考えや意見、そして子どもの長所、短所を織り交ぜながら、保護者と共通認識する機会として実施した。子育てに関する意見交換をしながら体験談も数多く聞かれ、保護者同士共感しあう様子も見られる等、保護者間の距離も縮まり今年も有意義な懇談会となった。いつでも入園希望の見学者が訪問した際には、笑顔で丁寧に園の特徴を伝えながら、質問や要望にも適切に対応するように心掛けた。コロナ感染症対策として、見学の際には園内進入は避け、玄関先で対応する事にした。

6、職員の資質向上

一般常識	◎ゆとりをもって出勤し、身だしなみ服装、言葉遣いや礼儀をわきまえた態度で仕事に臨むよう努めた。書類の提出期限や就業規則など全職員が周知して、守られるよう声を掛け合い、保護者や来客に対しては、明るく笑顔で対応できるよう心掛けた。状況に応じた適切な対応ができるよう努めた。
コミュニケーション	◎職員間の連携を深め、発達段階に応じた援助がスムーズに行えるように心掛けた。自分のクラス中心として考えるのではなく、全体を見通して、お互い尊重し合って保育に臨んでいる。ミーティングでは、意見し共有し合い、パート職員にも伝達を忘れる事のないように努め、同じ方向性のもと保育を進めることが出来た。職員間でねぎらいの言葉かけをする等、お互いが気持ちよく仕事できるように努めた。
保育教諭の意欲・姿勢	◎今年度はコロナの影響もあり、研修報告は少ない状況ではあったが、以上児・未満児ミーティングや会議で様々な問題、課題を取り上げ、意見し合うことで、園の資質向上に繋げるように努める事ができた。未満児クラスの連携に関して、短時間保育教諭の協力は大きな力であり、職員間の連携がうまく取れるように協力体制を取ることができた。一人ひとりの意識が高まり、子どもたちの活動する姿を見て、「今まではこうしていたが…こんな意味があって、今までやっていた事だったのかも…と、気づくことも多くあった。意見し合える環境となり、より良いものとなるよう、どの職員も前向きで意欲的であった。季節の製作物なども、職員同士が蜜に話し合いをし、年齢や発達段階に見合う内容の物を作り、子どもたちの製作物も工夫を凝らしてできた。お買い物ごっこでは、子どもたちが「楽しかった！」と思えるような充実したものになるよう努めた。満3歳児・以上児クラスに関しては、今までの職員間での連携を深め、お当番の取り組み方やお友だちとの関わり方、時間の気づき方…等見直ししながら、様々な面でレベルアップ出来るように取り組んでいる。
指導力	◎職員の経験年数に限らず、指導力に関して力量の差はあるが、職員の力量を把握しながら、それぞれの得意、不得意を考慮しながら、フォローし合って、一人ひとりの良い面を活かして教育及び保育に力を注げるよう、協力体制を整えていく。和太鼓指導では、経験者が少ない中で、指導の仕方も手探り状態ではあったが、職員が年長の担任をサポートし、指導の仕方を学びあえた。

7、今後の課題

<p>◎新年度、「サービスマニュアル」の読み合わせをするなどし、再確認していく必要がある。言葉づかい・あいさつ・おたより帳の書き方・子どもの接し方など園内研修に盛り込む（令和3年4月中）</p> <p>◎保護者への配慮（連絡・掲示物・信頼など）を丁寧に行い、コミュニケーションを密に図るよう努める。</p> <p>◎ミーティングの中で「環境保育」を再確認しながら、みんなが意見を出し合い、話し合いを充実させる。</p> <p>◎日々の保育では指示命令や指導型にならないよう、職員一人ひとりが十分に心がけ、園児主体の教育保育を行う。</p> <p>◎和太鼓指導は新井田の必須となるので、年長の担任だけではなく、全職員が同レベルになる</p>

らいに覚えていくのがベストである。

◎思いつきの保育ではなく、1年を見据えた計画を立てるようになる。

◎チーム保育の重要性を認識し、チームの一員として意思の疎通を図り、連携を取り合う姿勢を一人ひとりが心がけて教育保育に取り組む。

◎保育室・テラスなど片付け、広くスッキリし環境が改善されたが、一人ひとり意識して、元の場所に戻すなど徹底して、整った環境が維持出来るように心掛ける。

◎昼食だけではなく、手作りおやつの新メニューにも旬の食材を取り入れていきたい。

◎未満児の給食の状況も見に行くようにし、食材の大きさなど、適しているのか担任とも密に話し合いをしていく。